患者向医薬品ガイド
2024年11月更新

ヒューマログミックス50注カート
ヒューマログミックス50注ミリオペン

【この薬は？】

販売名	ヒューマログミックス50注 カート Humalog　Mix50	ヒューマログミックス50注 ミリオペン Humalog　Mix50
一般名	インスリン　リスプロ（遺伝子組換え） Insulin Lispro　（Genetical Recombination）	
含有量 （1製剤中）	300単位 （50%インスリンリスプロ+50%中間型インスリンリスプロ）	

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。
したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。
医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。
ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。
さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html　に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- この薬は、インスリンアナログ混合製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- この薬は、細胞内への糖の取り込み、肝臓での糖新生の抑制、および肝臓、筋肉におけるグリコーゲン合成の促進作用などにより血糖値を下げます。
- 次の病気の人に処方されます。

  インスリン療法が適応となる糖尿病

  - 2型糖尿病においては急を要する場合以外は、あらかじめ糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を十分行ったうえで、医師の判断により処方されます。

・ この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。

・ 低血糖症状のある人
・ 過去にヒューマログミックス 50 注に含まれる成分で過敏症のあった人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・ 手術を受けた人、外傷を受けた人、感染症にかかっている人
・ 低血糖を起こしやすい次の人
  ・脳下垂体機能に異常のある人、副腎機能に異常のある人
  ・下痢、嘔吐（おうと）などの胃腸障害のある人
  ・飢餓状態の人、食事が不規則な人
  ・激しい筋肉運動をしている人
  ・飲酒量の多い人
・ 自律神経に障害のある人
・ 腎臓に重篤な障害がある人
・ 肝臓に重篤な障害がある人
・ 妊婦または妊娠している可能性のある人
・ 授乳中の人

〇この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や，新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量と回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、成人の使用する量および回数は以下の通りです。

1 回量	4～20 単位
回数 ＊	1 日 2 回　朝食直前と夕食直前
1 日量	4～80 単位

＊ 医師の判断に基づき、使用回数が増減されることがあります。その場合も本剤は食直前に使用します。なお、1 日 1 回使用の場合は朝食直前に使用します。

●どのように使用するか？

・ 皮下注射します。詳しくは、取扱説明書を参照してください。

〔ヒューマログミックス 50 注カート（カートリッジ製剤）〕

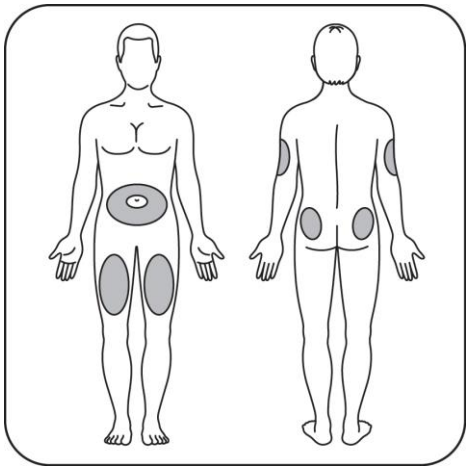
・ 必ず専用のインスリンペン型注入器を用いて使用してください。

〔ヒューマログミックス 50 注ミリオペン（ミリオペン製剤）〕

・ カートリッジ製剤と使い捨てのできるインスリンペン型注入器との一体型です。
・ 注射針は必ず JIS T 3226-2 に準拠した A 型専用注射針を使用してください。［本剤と A 型専用注射針との適合性の確認を BD マイクロファインプラスおよびナノパスニードルで行っています。］
・ 本剤と A 型専用注射針との装着時に液漏れなどの不具合が認められた場合には、新しい注射針に取り替えてください。

〔この薬を使用する全ての人に共通〕

・ 本剤のカートリッジにインスリン製剤を補充したり、他のインスリン製剤と混合してはいけません。
・ 注射のたびに新しい注射針を使用してください。
・ 一本のインスリンペン型注入器およびカートリッジを他の人と共用しないでください。
・ 本剤は懸濁製剤ですので、薬剤が均一に混ざるまで十分に混和してから使用してください。
・ 混和してもカートリッジの中の沈殿物と液が分離していたり、塊がみられたりする場合には、使用しないでください。
・ 必ず食直前（15 分以内）に皮下注射してください。
・ 皮下注射は、腹部、大腿部（だいたいぶ）、上腕部、臀部（でんぶ）などに行います。注射部位により吸収速度が異なり、その結果、作用発現時間が異なるので、部位を決め、その中で注射箇所を毎回変えてください。前回の注射箇所から 2～3cm 離して注射してください。



・ 静脈内に注射しないでください。皮下注射したとき、まれに注射針が血管内に入り、注射後直ちに低血糖があらわれることがあるので注意してください。
・ 使用済みの注射針は、取り外した針先が突き出ないような安全な容器に入れた後、子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

・ 決して２回分を一度に注射しないでください。
・ 注射をし忘れた場合は、医師に相談してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

・ 低血糖症状（お腹がすく、冷や汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下など）があらわれる可能性があります。
・ 低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、糖質を含む食品をとってください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。
意識が薄れてきた場合は、医師に連絡してください。
・ 低血糖症状の一つとして意識障害をおこす可能性もありますので、この薬を使用していることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・ この薬を使用するにあたっては、注射法や低血糖症状への対処法、器具の安全な廃棄方法などについて、患者さんまたは家族の方は十分に理解できるまで説明を受けてください。
・ 指示された時間に食事をとらなかったり、食事の量が少なかったり、予定外の激しい運動を行った場合、低血糖症状があらわれることがあります。低血糖症状に関する注意を必ずご家族にも知らせてください。低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、糖質を含む食品をとってください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。意識が薄れてきた場合は、医師に連絡してください。副作用は？に書かれていることに特に注意してください。
・ 肝機能障害（疲れやすい、体がだるい、力がはいらない、吐き気、食欲不振）があらわれることがあるので、これらの症状があらわれたら受診してください。
・ 急激な血糖のコントロールに伴い、糖尿病網膜症があらわれたり、悪化したり、目の屈折異常がおこったり、痛みを伴う神経障害があらわれることがあります。
・ この薬と他のインスリン製剤を取り違えないように、毎回注射する前にラベルなどを確認してください。
・ 同じ箇所に繰り返し注射すると、注射部位に皮膚アミロイドーシスやリポジストロフィー（注射した箇所のしこり）ができることがあります。前回注射した箇所より２～３㎝離して注射してください。しこりが出来た場合は、しこりへの注射は避けてください。しこりに注射した場合、充分な血糖コントロールが得られなくなることがあります。
・ 高所での作業や自動車の運転など、危険を伴う作業に従事しているときに低血糖を起こすと事故につながるおそれがありますので、特に注意してください。
・ 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
・ 授乳している人は医師に相談してください。

・ 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけっとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
アナフィラキシーショック	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
血管神経性浮腫 けっかんしんけいせいふしゅ	唇・まぶた・舌・口の中・顔・首が急に腫れる、喉がつまる感じ、息苦しい、声が出にくい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、ふらつき
頭部	意識の低下、めまい
顔面	血の気が引く、顔面蒼白、唇・まぶた・舌・口の中・顔・首が急に腫れる
口や喉	喉のかゆみ、喉がつまる感じ、声が出にくい
胸部	動悸、息苦しい
腹部	お腹がすく
手・足	手足のふるえ、手足が冷たくなる
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹

【この薬の形は？】

販売名	容器の形状
ヒューマログ ミックス 50 注 カート	
ヒューマログ ミックス 50 注 ミリオペン	

・ 性状　　：穏やかに振り混ぜると、白色の懸濁液となります。
・ 内容量　：3mL

インスリンペン型注入器

ヒューマペンサビオ

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	インスリン　リスプロ　（遺伝子組換え）
添加剤	プロタミン硫酸塩、濃グリセリン、m-クレゾール、 液状フェノール、リン酸水素二ナトリウム七水和物、 酸化亜鉛、pH 調節剤

【その他】

●この薬の保管方法は？

〔ヒューマログミックス 50 注カート（カートリッジ製剤）〕

・ 凍結を避けて冷蔵庫など(2～8℃)で保管してください。光を避けてください。
・ カートリッジをインスリンペン型注入器に装着したまま、冷蔵庫に保管しないでください。
・ 使用開始後は 28 日以内に使用してください。

〔ヒューマログミックス 50 注ミリオペン（ミリオペン製剤）〕

・ 凍結を避けて冷蔵庫など(2～8℃)で保管してください。光を避けてください。
・ 使用開始後は冷蔵庫に保管せず、28 日以内に使用してください。

〔この薬を使用する全ての人に共通〕

・ カートリッジの壁や底に白色の霜状粒子が付着することがありますが、このような本剤は使用しないでください。
・ 子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・ 絶対に他の人に渡してはいけません。
・ 余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

・ 使用済みのカートリッジ・ミリオペンおよび使い捨て注射針については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・ 症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・ 一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：日本イーライリリー株式会社（https://www.lilly.com/jp）
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
Lilly Answers（リリーアンサーズ）
電話：0120-245-970（一般の方、患者様向け）
受付時間：8 時 45 分～17 時 30 分
（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）